- A13** 石垣島野底地区における植生と優占蚊種の関係；96年7月の調査結果
 高木正洋¹、津田良夫¹、杉山 章^{○2}、丸山勝己³、C. Mwandawiro¹、
 R.E. Morales⁴、K.A.R. Makoko¹、浦川恵美子¹、和田義人¹
 (1: 長崎大・熱研・生物環境、2: 名古屋女大・短期大学部、3: 三重県衛研・疫学情報、4: 鹿児島大・理・生態)
 Vegetation at Nosoko, Ishigaki-Shima affecting the predominant mosquito species; results on a survey in July 1996
 Takagi, M., Tsuda, Y., Sugiyama, A., Maruyama, K., Mwandawiro, C., Morales, R.E., Makoko, K.A.R., Urakawa, E. and Wada, Y.

石垣島野底地区の山脚部から海岸に近い平坦部にかけての16地点を選び、定められた撮影法に従ったカラー写真に基づく植生の分析を試みた。同じ地点でドライアイストラップと人囀による夜間採集を実施し、植生と優占蚊種の関係を探った。コガタハマダラカ (*An. minimus*) は、比較的植生の密な地点を中心に多く採集されたが、密であればあるほど多いというような単純な傾向はみられなかった。コガタハマダラカと対照的な分布を示したのは、ヨツホシイエカ (*Cx. sitiens*) であった。採集結果の違いを植生、幼虫発生水域の分布、吸血行動などの違いから考察する。

- A14** 日長、温度が *An. s. soperi* 成虫の翅形態に及ぼす影響
 比嘉由紀子[○]・當間孝子（琉大・医・保健）、
 宮城一郎（琉球大学・医・保健、琉球大学・医・地域医療研究センター）
 The effects of day length and temperature on wing morphology of
Anopheles soperi soperi
 Higa, Y., Toma, T. and Miyagi, I.

An. s. soperi 成虫の翅の形態は季節によって変化が見られるが、本研究では、日長や温度が成虫の翅の形態にどのように影響を及ぼすか実験的に調べた。一腹からの孵化直後の幼虫あるいは野外で採集した一令幼虫を2グループに分け、日長、温度条件の異なるそれぞれのバイオトロンで飼育した。日長の実験では、温度(25℃)を一定にし、日長をそれぞれ10時間と15時間に設定した。温度の実験では、日長(15時間)を一定にし、温度をそれぞれ15℃と25℃に設定した。雌成虫の翅をプレパラート標本にし、翅長、先白斑幅、中白斑幅を光学顕微鏡とビデオマイクロメーターを用いて測定した。その結果、日長が10時間の時翅長は15時間に比べて平均0.2~0.5mm程長くなるが白斑幅には変化がみられなかった。気温は翅長、白斑幅いずれにも影響を及ぼしていることが示唆された。